

日本近海に生息するスズキ科魚類は、スズキ、ヒラスズキ、タイリクスズキの3種です。タイリクスズキの別名はホシスズキで、体に黒斑があります。成長が速いため、中国から導入され、各地で養殖されていますが、一部が逃げ出したとされています。

スズキとヒラスズキは日本の在来種ですが、ヒラスズキの分布域は静岡県から長崎県までなのに対し、スズキは南シナ海まで分布します。両種とも全長90cmを超える見事な魚です。



ヒラスズキ，2004年5月23日御畳瀬漁港にて釣りで採集，全長35cm。

スズキの若魚は内湾の汽水域に侵入するが、ヒラスズキは侵入しないという見解があります。しかし、浦戸湾では全長8cm程度のヒラスズキが灘や衣ヶ島周辺で、曳き網により頻りに採集されています。

スズキの背鰭の軟条数は12本から14本（まれに15本）です。また、全長25cm以下のスズキは小さな黒斑を持つことがあります。ヒラスズキはスズキよりも背鰭の軟条数が多いこと、体高が高いこと、尾柄（尾の付け根）が高いことで区別できます。ともに釣り、特にルアー釣りの対象として人気が高い魚です。

2004年9月22日発行 発行者：町田吉彦（理学博士，高知大学理学部教授，
四国自然史科学研究センターセンター長）

本書の内容の無断複製を禁止します。複製ならびに内容についての問い合わせはFAX 088-844-8310（町田研究室直通）をお願いします。